

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Job Kids尼崎		
○保護者評価実施期間	2026年1月13日		～ 2026年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41人	(回答者数) 36人
○従業者評価実施期間	2026年1月26日		～ 2026年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	年齢に応じて教室を分けており、利用者の特性やスキル、保護者の希望に応じて教室を選択できる体制を整えている。	5領域に基づき、年齢やスキルに応じた内容豊富なカリキュラムを確立している。また、日頃から教室間の交流や体験の機会を設け、異動や移籍があってもスムーズに対応できるよう配慮している。	本人支援に加え、移行支援や地域支援も強化し、こども一人ひとりに対してより包括的な支援を実施している。
2	安全を最優先にした事業所運営を行い、十分なスタッフ配置を徹底している。	日々細やかに打ち合わせを行い、各スタッフがマニュアルを遵守できているか確認している。また、送迎業務は必ず2名体制で実施している。職員は基準以上に配置し、専門職スタッフも充実させている。	・安全計画に基づく研修をさらに強化する。 ・インターンシップとして心理学専攻の学生を受け入れ、カリキュラム作りに参加してもらうことで、より専門的で充実したカリキュラムを実施する。
3	同法人が就労サービスや短期入所施設も運営しているため、こどもや家庭に対して切れ目のない一貫した支援を提供できる。	短期入所施設では、レスパイトサービスとして家族支援も行っている。また、卒業後の進路をイメージできるよう、オープンキャンパスや体験会も開催している。	日頃から他サービスの利用者との交流機会を設けるなど、活動範囲を広げ、利用者が主体的に参画できる活動を行っている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域社会との連携や交流の機会が少ないこと	活動の多くが事業所内で完結しており、特性の理解や安全面の観点から、地域との積極的な交流が難しい。	地域での課外活動を実施することで、地域の他の子どもたちとの交流の機会を持ち、地域社会への参加や包摂を促進する。
2	保護者会の開催やきょうだい支援を行う機会が限られていること	保護者のニーズが多様であるため、具体的な実施には至っていない。	きょうだい児を対象とした交流イベントの実施を検討する。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 Job Kids尼崎

公表日 2026年3月4日

利用児童数 41人

回収数 36人

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	35	1	0	0		今後も、発達支援室だけでなく、パソコンや運動プログラム、課外活動など各プログラムに適した環境で活動を行っています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	35	1	0	0		今後もサービスの向上と安全面に十分配慮し、基準以上の人員を配置してまいります。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	29	2	0	5		今後も、お子さまが安全に安心して過ごせる環境づくりに努めてまいります。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	33	1	0	2		今後も、お子さまが安全に安心して過ごせる環境を整えてまいります。
適切な 支援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	32	3	0	1		今後もご家庭と連携を回りながら、集団療育と個別支援を組み合わせ、一人ひとりに合った支援を行ってまいります。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	34	2	0	0		今後も、提供する支援内容と相違がないよう、支援プログラムを作成・公表してまいります。
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	35	1	0	0		今後もご家庭と連携を回り、共通理解のもとで個別支援計画を作成してまいります。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	33	2	0	1		今後もご家庭と連携を回り、ニーズや課題について共通理解を深めながら、支援内容の向上に努めてまいります。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	34	1	0	1		今後も、適切な支援の提供に努めてまいります。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	33	2	1	0		今後も、プログラム内容が固定化しないよう工夫してまいります。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	14	5	8	9		今後も外出イベントで児童館を活用し、地域の子どもたちとの交流の機会を設けてまいります。
保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	36	0	0	0		今後も、保護者の皆さまに安心してご利用いただけるよう努めてまいります。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	36	0	0	0		今後も、保護者の皆さまに安心してご利用いただけるよう努めてまいります。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	18	4	4	10		保護者の皆さまのご要望に応じ、今後検討してまいります。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	32	4	0	0		今後も日頃の様子などを随時共有し、保護者の皆さまと共通理解を持ちながら支援を行ってまいります。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	34	1	0	1		今後も随時情報共有を行い、課題解決に向けてご家庭と連携を図ってまいります。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	35	1	0	0		今後も、保護者の皆さまに安心してご利用いただけるよう努めてまいります。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	7	5	11	11		きょうだい児を対象とした交流イベントの実施を検討してまいります。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	28	1	0	5		今後も、窓口担当者（管理者）および解決責任者が連携し、迅速な対応に努めてまいります。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	31	3	0	0		今後も、適切な支援の提供に努めてまいります。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	32	1	0	1		今後も、公式LINEで毎月発行の広報誌やイベント情報、災害発生時の対応などを配信いたします。また、ホームページには毎日更新のブログや自己評価結果も掲載しております。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	33	0	0	1		今後も、適切な支援の提供に努めてまいります。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	28	2	0	4		今後も各種マニュアルは事業所内に設置し、保護者の皆さまには利用契約時や面談時に周知・ご説明いたします。また、引き続き年間研修計画に基づき訓練を実施してまいります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	31	1	0	2		今後も、毎月のプログラムの中で避難訓練を実施いたします。また、必要な備蓄品も備えております。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	31	1	0	2		今後も、安全計画に基づき研修を実施し、適切な支援の提供に努めてまいります。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	31	2	1	0		今後も、事故等の発生に備え、緊急時対応マニュアルに基づき研修を実施し、迅速な対応に努めてまいります。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	34	0	0	0		今後も、お子さまが安心して過ごせる事業所運営に努めてまいります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	30	4	0	0		今後も、お子さまが安心して過ごせる事業所運営に努めてまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	32	1	1	0		今後も、よりご満足いただけるサービスの提供に努めてまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		Job Kids尼崎		公表日 2026年3月4日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		指定基準に基づき、利用定員に適した広さと安全性を確保している。活動内容に応じた環境設定を行い、動線にも配慮することで、集団・個別の両活動に対応しつつ事故防止に努めている。	今後も継続的に適切な支援を行う
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		児童発達支援管理責任者兼管理者1名、児童指導員4名、理学療法士1名を配置し、専門性を活かした支援体制を整えている。	今後も継続的に適切な支援を行う
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		こどもにとって分かりやすいよう視覚的配慮や活動ごとの空間設定を行い、構造化された環境としている。設備面においても、障害特性に応じた安全対策や段差への配慮、視覚的支援の活用など、環境上の配慮を適切に行っている。	今後も継続的に適切な支援を行う
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		生活空間は清潔を保ち、安心して心地よく過ごせる環境としている。また、こどもたちの活動内容に応じた空間設定を行っている。	今後も継続的に適切な支援を行う
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		必要に応じて、個別の部屋やスペースを使用できる環境を整えている。情緒面や体調面に配慮し、落ち着いて過ごせるよう職員が状況に応じて柔軟に対応している。	今後も継続的に適切な支援を行う
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		業務改善のPDCAサイクルでは、目標設定から振り返りまで、職員全員が参画できる体制を整えている。意見や提案を共有し、日常の業務改善に反映できるよう工夫している。	今後も継続して業務改善に努める
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		保護者向け評価表を活用し、保護者の意向や要望を把握する機会を設けている。その結果を職員間で共有し、業務改善や支援内容の向上に反映している。	今後も継続して業務改善に努める
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		職員の意見や提案を把握する機会を定期的に設け、その内容を業務改善や支援体制の向上に反映している。	今後も継続して業務改善に努める
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5	現在、第三者による外部評価は実施していない。	今後十分に検討し、より充実した支援体制の整備に努める
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		階層別研修や年間研修計画に基づき、専門性向上、コンプライアンス、虐待防止、感染症対策、緊急時対応などの研修を毎月実施している。外部研修についても社内掲示で周知し、参加機会を確保している。	今後も継続して職員の資質向上に努める
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		支援プログラムは児童の特性に応じて適切に作成され、公表されている。	今後も継続的に適切な支援を行う
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		個々のこどもに対して適切にアセスメントを行い、ニーズや課題を分析した上で、目標や具体的支援内容を盛り込んだ放課後等デイサービス計画を作成している。	今後も継続的に適切な支援を行う
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		児童発達支援管理責任者と関わる全職員が意見を出し合い、こどもの特性やニーズに応じて最善の支援内容を決定して作成している。	今後も継続的に適切な支援を行う

適切な支援の提供	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		職員全員に共有され、こどもの特性や目標に応じた具体的な支援内容が日常の活動に反映されている。職員間で情報を確認し合い、計画通りに支援が行われるよう調整している。	今後も継続的に適切な支援を行う
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		発達検査や行動チェックリストなどのフォーマルな評価と、日々の活動観察や記録によるインフォーマルな評価を組み合わせで確認している。	今後も継続的に適切な支援を行う
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等サービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		支援内容は5領域に基づき個別支援計画を作成している。家族支援や移行支援は、保護者の希望やこどもの発達に応じ、生活習慣の定着や学校・次の生活場面への準備、関係機関との連携を計画に反映している。	今後も継続的に適切な支援を行う
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		活動プログラムはチームで立案し、こどもの発達や興味・得意・苦手に応じて内容や時間配分を調整している。集団活動と個別活動のバランスを工夫し、効果的で楽しく取り組めるよう工夫している。	今後も継続的に適切な支援を行う
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		こどもの発達や興味、保護者の意向に応じて内容や順序を柔軟に調整し、集団活動と個別活動の組み合わせを工夫するなど、固定化しない工夫をしている。	今後も継続的に適切な支援を行う
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		発達状況や保護者の希望に応じ、個別活動と集団活動を組み合わせた個別支援計画を作成し、生活習慣や学習、社会性・情緒面の具体的な支援を行っている。	今後も継続的に適切な支援を行う
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		前日の支援内容やこどもの様子を振り返り、良かった点や改善点を共有している。また、当日の送迎スケジュールやカリキュラム、職員の配置・役割分担を確認している。	今後も継続的に適切な支援を行う
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		毎日支援終了後に振り返りを行い、こどもの様子や支援方法の効果・課題を確認している。内容は記録し、翌日のミーティングで活用することで、職員間での情報共有と一貫した支援に努めている。	今後も継続的に適切な支援を行う
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		個別支援計画に基づき、支援内容やこどもの反応・行動を日々記録している。	今後も継続的に適切な支援を行う
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		6か月ごとのモニタリングで保護者面談を行い、こどもの成長や家庭での様子を共有して共通理解を持ち、支援内容や目標の見直しに活かしている。	今後も継続的に適切な支援を行う
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5		4つの基本活動を組み合わせ、こどもの発達や興味に応じて内容や取り組み方を柔軟に調整し、効果的で参加しやすい支援を行っている。	今後も継続的に適切な支援を行う	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		お子様の特性に合わせて文字や絵カード、図表、写真などで選択肢を提示している。活動内容やおやつ、遊ぶおもちゃなどを視覚的に示すことで、こどもが自分で考え、意思を伝え、選択できるよう支援している。	今後も継続的に適切な支援を行う	
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		こどもの状況をよく理解している職員が参画している。事前にこどもの発達状況や支援の経過、家庭での様子を整理・共有し、会議中に的確な情報提供や提案ができるよう準備している。	今後も継続的に適切な支援を行う	
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		特別支援学校の連絡会や相談支援事業所と定期的に情報交換や会議を行い、こどもの状況や支援方針を共有することで、連携を図っている。	今後も継続的に適切な支援を行う	
28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		利用に関する確認は、ホームページや保護者にお渡ししている利用申込書で行っている。変更やトラブルが発生した場合は、送迎責任者が速やかに対応している。	今後も継続的に適切な支援を行う	

関係機関や保護者との連携	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		保護者からの聞き取りや相談支援事業所との情報共有を通じて、こどもの状況やニーズを把握している。	今後も継続的に適切な支援を行う
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		移行先の事業所や相談支援事業所から求められた場合には、保護者の方の了承を得た上で、こどもの状況や支援内容の情報を提供を行っている。	今後も継続的に適切な支援を行う
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	3	研修情報は社内掲示で周知し、職員が参加できるように案内している。	今後積極的に研修等に参加していく
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5		公園や施設を利用する際には、地域のこどもたちと交流できる機会を意識して取り入れている。	課外活動を充実させ、地域の子どもの交流機会の拡大に努める
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。		5	現在は協議会等への参加は行っていない。	今後も協議会からの依頼に応じ、積極的に参加する
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送迎時や日々の連絡で、保護者との情報交換を行い、支援方針について共通理解を持てるようにしている。	今後も継続的に適切な支援を行う
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		5	現在はペアレント・トレーニングを実施していないが、保護者向け研修などの情報提供は適宜行っている。	保護者様のご要望を踏まえ、今後検討していく
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		利用契約時に、サービス内容や利用条件について保護者に説明を行っている。	今後も継続的に適切な支援を行う
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		6カ月ごとのモニタリング時に保護者面談を行い、保護者の意向を踏まえて個別支援計画を作成している。	今後も継続的に適切な支援を行う
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		個別支援計画を提示しながら支援内容を説明し、保護者の同意を得ている。	今後も継続的に適切な支援を行う
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		定期面談などで相談援助を行い、解決策は保護者と一緒に考えることで、ご家庭と事業所で一貫した関わりができるよう連携を図っている。	今後も継続的に適切な支援を行う
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		5	現在は保護者会は実施していないが、事業所説明会やオープンスクールを開催して保護者との情報共有や理解促進に努めている。	保護者様のご要望を踏まえ、今後検討していく
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		法人内の苦情対応窓口や、尼崎市・兵庫県の相談窓口について、利用契約時に保護者へ周知している。苦情があった場合は、改善に向けて迅速に対応するよう努めている。	今後も継続的に適切な支援を行う
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		公式LINEでは、毎月の広報誌やイベント情報、災害時の対応などを配信している。また、ホームページには毎日更新のブログや自己評価結果を掲載し、保護者や関係者への情報提供を行っている。	今後も継続的に適切な支援を行う
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		書類は鍵付き書庫で管理し、PC内のデータは社外への持ち出しを禁止している。また、社内のネットワークやシステム環境も整備し、情報セキュリティの確保に努めている。	今後も継続的に適切な支援を行う
44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		護者との情報伝達は、電話・メール・書面など複数の手段を用い、さまざまな状況に対応できるようにしている。	今後も継続的に適切な支援を行う	

	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5	避難訓練や防災訓練などの行事について、地域住民に呼びかけを行っている。	今後も継続的に適切な支援を行う
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		5	各種マニュアルは事業所内に設置し、保護者には利用契約時に周知・説明している。また、年間研修計画に沿って訓練も実施している。	今後も継続的に適切な支援を行う
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		5	業務継続計画（BCP）に基づき、感染症対策および自然災害時の対応について、それぞれ年2回訓練を行っている。	今後も継続的に適切な支援を行う
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。		5	見学の時点で服薬状況やてんかん発作の有無を確認し、利用が決まった場合は、保護者と相談の上で諸注意事項を決定している。	今後も継続的に適切な支援を行う
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		5	利用契約時に食物アレルギーの有無を文書で確認し、食事提供時には食材等について保護者と再確認を行っている。	今後も継続的に適切な支援を行う
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		5	安全計画に基づき、設備の点検や研修・訓練を実施している。また、各種マニュアルは年度末に見直しを行い、最新の状況に対応できるよう整備している。	今後も継続的に適切な支援を行う
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		5	カリキュラム内で実施した訓練や対応方法を保護者に共有し、その内容を広報誌にも掲載するなどして、周知を図っている。	今後も継続的に適切な支援を行う
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		5	ヒヤリハットが発生した際には報告書を作成し、再発防止策を検討している。また、事例を踏まえてマニュアルの改訂も適宜行っている。	今後も継続的に適切な支援を行う
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		5	社内研修は年2回および新入職員入社時に実施している。外部研修については社内掲示で周知し、参加を促進している。	今後も継続的に適切な支援を行う
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		5	身体拘束は法人として原則行わないが、やむを得ず行う場合に備え、指針の整備や研修の実施など、適正な対応に努めている。	今後も継続的に適切な支援を行う	